

歯と口の機能と治療管理

お名前 _____ 様 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

全身の状態

- 治療中の疾患 なし あり (疾患名: _____)
服薬 なし あり (薬剤名: _____)
- 肺炎の既往 なし あり 繰り返しあり
低栄養リスク なし あり 不明
(体重の変化等)
食事形態 普通食 介護食 非経口

歯と口の状態

- 清掃の状況 良好 不良 著しく不良
口腔乾燥 なし 軽度 重度
むし歯 なし あり
治療の緊急性 なし あり
歯周疾患 なし あり
治療の緊急性 なし あり
口腔軟組織疾患 なし あり
治療の緊急性 なし あり
義歯の使用状況
上顎 あり なし
下顎 あり なし
噛み合わせの安定 あり (片側・両側) なし
義歯製作(修理等)の必要性 なし あり

口腔機能の状態

- 咀嚼機能 良好 普通 不調
摂食・嚥下機能 良好 普通 不調
発音機能 良好 普通 不調

医療機関名
(担当歯科医)

(社)日本歯科医師会・日本歯科医学会 監修

ご質問がありましたら、いつでもお申し出ください



訪問口腔ケアマニュアル案

歯科医師

- 1、原疾患、バイタルサインの安定の確認
- 2、う蝕・歯周病・義歯等の口腔の問題点に関する咀嚼回復プログラム立案
- 3、摂食・嚥下障害の程度（藤島のグレード）の判定
 - 【重症】 Gr1：嚥下困難・不能、嚥下反射が起きない Gr2：誤嚥があり、口腔ケアと基礎訓練のみの適応 Gr3：条件を整えば誤嚥は減り摂食訓練が可能
 - 【中等症】 Gr4：楽しみとしての摂食は可能（非経口） Gr5：一部（1～2食）は経口摂取が可能 Gr6：3食とも経口可能であるが補助栄養必要
 - 【軽症】 Gr7：嚥下食で、3食とも経口摂取可能 Gr8：特別なもの以外3食とも経口摂取可能 Gr9：普通食可能であるが、観察と指導が必要
- 4、唾液嚥下時の頸部聴診
- 5、摂食・嚥下評価の確認と指導（口腔機能改善プログラム立案）
- 6、他職種への情報の伝達

歯科衛生士

- 1、アセスメント：口腔機能評価の聞き取りと観察
- 2、歯科医師への報告
- 3、口腔清掃による口腔環境の改善と口腔機能の向上
- 4、家族や他職種への口腔ケア指導

摂食・嚥下機能評価

- 現在の食形態と食事について
（食形態・食欲・食事量や体重の減少・窒息の既往・食事の時間と疲労度等）
- 日常の口腔ケアについて
- 姿勢（ギヤッチアップ・腰や足底の安定・頸部前屈・口腔内麻痺側の確認）
- 摂食状態の聞き取り（ムセ・痰のからみ・口内残留・口渇・声の変化・呼吸の変化・のどにつまる・食べこぼし等のチェック）
- 構音障害（パンダのたからもの・パタカラ等）
- 平熱より1度以上の発熱（毎回の体温測定あるいは聞き取り）、肺炎、脱水の徴候
- 喉の違和感や痰の量の増加
- 必要に応じて反復唾液嚥下テスト（RSST）あるいは改訂水飲みテスト

※ 歯科衛生士は、口腔ケア時に嚥下評価の変化を歯科医師に報告をする。歯科医師は必要に応じて、他職種に伝達をするか2次医療機関（VF・VE設置機関等）に紹介をする。